

ICTを活用した稲作支援に関する実証実験について

実証期間	2018年8月9日～2020年3月31日
実証場所	静岡県磐田市・袋井市内
背景・目的	・稲作の大規模経営体では、水管理作業や生育状況の把握等の労働負荷が大きな課題となっているが、農業（稲作）の効率化を図るには、機器や通信費用などのコストが高く、導入の障壁となっている。 ・このため、ICTを活用した稲作支援の実証実験を行い、農作業の省力化や地域のお客さまの課題解決に資するサービスの開発を目指す。
主な 検証内容	・電柱に設置した無線基地局と水田に設置した水田センサー・給水弁とでネットワークを構成し、効率よく情報伝送可能な事を検証 ・電柱に設置したWEBカメラにより、リアルタイムな状況把握や、記録した静止画により、水稻の生育状況を比較把握することが農業に有効な事を検証 ・水田の近傍に設置した気象センサーによって詳細な気象情報を把握し、農業のノウハウ蓄積に貢献することを確認 ・機器の保守業務を、中部電力が一括して担い、機器ベンダーでなくても保守可能な事を確認 ・水田を遠隔監視するICT水管理システムの実用化に向けて、実際の水田で検証を実施し、農業経営体からのフィードバックに基づく効果検証やシステム改良

ICTを活用した稲作支援の実証実験（イメージ図）

- 【観測】 「①水田センサー」「②気象センサー」の計測データは、電柱に設置した「④無線基地局」で集約しインターネット経由で「⑤パソコン等」で確認。
「③WEBカメラ」のデータは、インターネット経由で「⑤パソコン等」で確認。
- 【制御】 水田への給水は、「⑤パソコン等」を用いてインターネット経由で「⑥給水弁」の操作を実施

